

2020年4月19日

最近歳のせい、毎日最低1回以上、何かに感動することが必要なのではないかと思うようになった。特に歳をとったからということではなく、我々は日常感動することが少なくなっているのではないかと思う。ドラマに出てくるような大げさな感動でなくてもよい。単純に技術がすごく発達したなあとか、花がきれいだとか、初めてのことに会って少し興奮したでもいいと思う。大げさに言えば脳が震えたとか感激してゾクッとしたとか日常の中で、そんなことが少なくなったのではないだろうか！脳が震えるような感動は、文字通り脳が震え、活性化するように思う。歳をとるとこうした脳が震えるような感動から遠ざかってしまうため、脳が衰えてしまうのではないかと感じる。感動を覚えるうちはまだ脳を若く保てるのかなと思う。若い人も含め脳が感動するようなことをしているだろうか？最近の人に対してこうした疑問を持っている。一日に一回は感動するようなことをしよう！

私はアニメ好きでもあり、「君の名は」やら「天気の子」やら「バイオレット・エバーガーデン」やらのアニメを見て感心している。またひところ子供たちの間ではやったパプリカ、特に詞を見て感心したりしている。単純なのかもしれないが！パプリカの詞は今子供たちは内容を分からずに歌ったり、踊ったりしているがそれでいいのだと思う。子供たちは脳も体も使ってパプリカを歌っている。多分あの詞の意味を知るのはもう少し歳をとってからかもしれないが、それでいい。私の年になると自分の子供のころを思って感激しているが。さあ若者も、年寄りも、もっと脳を震わそう！